

第2号
(水無月)
2013年6月1日

七里ヶ丘こども若者支援研究所 それが社会参加だ



鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12
09072124055
qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
発行責任：滝田衛

京都嵯峨野三千院

会員の会の名称は… **こども若者応援団** で進めます

七里ヶ丘 こども若者支援研究所 ようやくスタートしました。5月13日(月)から相談事業が始まりました。28会員、支援者を入れ50人です(5月30日現在)。神奈川新聞の記者さんが関心を持ってきて、20日(月)に取材頂きました。近日中に記事になることと思います。そして30日(木)は3人で会員会議??? いえいえ人と人の素敵な出会い、生きること&奪われていくこと、自分を失わないこと&自分を中心に置くこと等等。親(自分)⇄子ども⇄教育⇄社会、壮大な人間観を、“自分語り 人語り”で、なんとランチを取りながら4時間尽きない話をしました。とすることで、研究所の事業を社会に結び付ける会員の会の名称・活動内容などは…不十分! でも会員の会はスタート。名称は「**こども若者応援団**」、会費60%(3,000円)+事業費50%+講演会等収入全額(経費除く)を諸活動団体に寄付します。5月末日現在 **198,000円**が集まりました、感謝!

雑談&本音トーク 穏やかに時間が過ぎて…

島根三枝子さん(元不登校の親、地球屋主宰、代々木高等学院カウンセラー)が会員として来てくれました。10年ぶりの再会。会員のKさんも加わり滝田と心の交流でした。楽しく充実した語らい、Kさんいかがでしたでしょうか? 「私(K)がここに居ていいんでしょうか」と繰り返し自問、でも今日までの自責や苦闘を語って下さいました。島根さん曰く「親も第二の思春期よ。こどもの生き迷い(不登校や病気や障害やetc…)を通して親も育つの」に、Kさんは何度も頷きました。お二人は3人の子の母親、こどもの成長に葛藤してきた点も共通? 僕はKさんと島根さんが出会うことを願っていたし、出会いは必然と思って今日を迎え、僕的には心から喜んでた。次のステージに歩を進めている島根さん、息子さんが新たな歩みに入ったKさんの次なるステージの絡み合う話は絶妙だった。



島根さん(右)、Kさん(中央)、滝田(左)

親と育つ、そして社会の中で育つ。人との出会い、偶然が必然になる。僕はKさんの息子さんと歩んで、実に成長させてもらった実感を持つ。島根節”第二の思春期”説は親だけでなく寄り添う大人たちも同じなんだ。大人はこどもと共に育って、自分を知り自分を確信するのだ。これを変化といえば変化なのかもしれない。と…。教育に潜む課題にも言及、共に育つことは難しい教育現場と。いじめ・不登校の学校現象、皆さんはいかがでしょう。

話す 聞く 関わる 行動する… だって!? 僕らはみんな生きているから

鎌倉市でも相談員として仕事をし、研究所でも相談を受け、今月も30件を超える事例に出会っています。僕の仕事の基本は「聞くこと」です。聞くためには「話さ」なくてはなりません。迷いや不安や混乱する思いを持っていても、言葉にならないのが人間です。言葉にするって難しいのです。時には雑談的に、時には失敗談で、時には経験談で、そして時には辛い思いに介入しながら、言葉を紡いでいきます。言葉の紡ぎ合いから会話の積み重ねが、相互の関係の深まりにつながります。関係の深まりとは、安心と理解です。自分の行動が認められ、「間違っていない」と自己肯定感を手にすることです。この社会は、切り捨て排除し、あれもダメ、これもダメが横行する社会。自己肯定感をそぎ落とし、平均化し個性を失うことで自己を確立することを求める社会。個性豊かな歌手やスポーツ選手にあこがれるのは、枝葉をそぎ落とされた凡人の悲願? でしょうか。でも行動し具体的の中でこそ自分の力(可能性も非力も)を知るので。だって、(私たちは)みんな生きているのだから。ケセラセラ～

コラム風 あいかわらず強い風が吹く感覚に迫られている。5月24日のアメリカ・オクラホマの”巨大”竜巻。自然界が怒っている! ってな訳はなく、人間の警戒心や恐怖感が感じ取ってしまうのであろうが…。そういう警戒心等は冷静に考えれば大事なこともかもしれない。日本の経済の復活? と喜ぶのもつかの間、株価が暴落。实体经济に反映していない円安と株高騰。世界を席卷する投資家たちのマネーゲームへの警戒心・恐怖感なくしてこの状況は語れない…。自然の摂理とは言えないからだ。「見えざる手」と資本主義の経済原理を規定したアダム・スミスさん、この100年余りを、そして巨大投資家たちの存在を、どう思っているのか聞いてみたい。そんなことを考えているうちに、女性を性の道具化する前近代的な男尊女卑、自虐史観に洗脳されたオオサカ? 「俺たちがやったことは、お前たちもやっているのだから。俺たちだけがなぜ責められる!」とは大人げない。言いたい放題の「何でもみんな俺だけを責めるんだ」との自尊感情を失った、これこそ自虐。江戸時代末期の尊皇攘夷は、諸外国の武力と文化力のすごさの前に尊皇倒幕に転進した(八重の桜見ちゃいますね)。判断力や洞察力の喪失、歴史に学べないオオサカである。多くの犠牲にぬかずく”命どう宝”、反省の直視と誠実が不可欠! 残念。果たしてさわやかな風、おだやかな風、居心地の良い風を求めている自分に気づく。♪人は誰も恋をしたせつなさに～ 帰っておいでよと振り返っても～ そこにはただ風が吹いているだけ♪ 途中端折ったが、そう”ただ風が吹いているだけ”なのです。潮風に吹かれながら、もうすぐ暑い夏がやってくる。いっぱい汗をかき思いを吐き出そう。風をうけ海を見ながら、そこに心を空にする自分がある。9日(日)”命どう宝”の石碑除幕、沖縄に行き加藤彰彦さんにお会いしようと。裏面の岡本さんの著書、お読みください。

13人の相談を受け 改めてちっぽけな自分を知る



**アウンサンスーチーさん(先月来日されましたね)のお家
ミャンマー写真館(12月29日から3日まで現地日本人学校等見学)**

5月に入り、いよいよ相談を始めました。研究所を訪れてくれる方々、訪問をさせて頂いた方々、計13人(若者7人 親6人)。ここ数年相談でお付き合いしている方々で新しい方はいませんが、それぞれに素敵な内容でした。親を思い社会参加に葛藤する若者、子を思い親として支える確かさを手にしたい親。存在感がきつりと詰まった方々とお会いしていると、私自身が小さな存在に見えてしまいます。そうなんです。それでいいのです、そっと見守る役割、それが支援者。

エピソード1 Aさんは小中学生の頃は学校で人気者(無理して作っていた自分)、いつの間にかいじられキャラに。大学受験に失敗し海上自衛隊へ、頑張りすぎと理不尽な仕事環境(上下関係と暴言暴力)に耐え、でも退職。(写真では謳歌する素敵なお自衛官姿 ハワイで?) 専門学校を経て、20代中盤の人生葛藤。数年の親子の苦闘を経て、通院から障害認知、就労研修を経て、現在八百屋見習い、大田市場や店頭に立っています。「昔は焦ってましたね」と穏やかに語る口調の彼に、人生の道筋の確かさを実感した滝田でした。

エピソード2 Bさんは不登校。通信制高校から通信制大学へ。学びを通して自分づくりと社会参加をゆっくり進めてきた。数年前、経済的自立と社会参加の模索、はるかぜ書店で研修しハローワークへ。相談員に勧められた青果卸業へ就職。あれから2年、見違える健康美(元々アピーに苦しむ)と健やかな会話に僕は喜んだ。彼女は大学の卒論卒業、仕事環境(厳しい経営状況)に新たな葛藤、何を大事にするか…。はたして彼女は、卒業優先、今の働き方維持を心に決めたのでした。

エピソード3 Cさんは中学不登校からひここもる。でも運動に出かけたりコンビニへ買い物は行く。もちろん時々親と食事にも。1年弱の訪問。谷川俊太郎の詩を読んだ。「まじめなひとが まじめに泣いている おかしい」に、「泣いている人をおかしいとは言えない」と自分の感情を表現。僕はタジロイだ。そう、先月も「ネット社会の関係の方がリアルな人間関係より難しい」と持論を展開したからだ。皆さんはいかがだろうか…。

会員及び支援者の皆様方の声

○支援者応援の声

△僕らのコメント

○島田さんを始めとする若い方達にアンガ(注NPO法人)をバトンタッチして先生のお住まいの地域に貢献なさる姿勢に時代を感じながら今までの歴史と一緒に振り返りつつ(手紙を)読ませていただきました。どれだけ多くの方々が先生に救われたでしょう！いろいろな人のお顔が思い出されます。いつも暖かく寄り添って下さり感謝の気持ちでいっぱいです。いまでも初めてお電話した時を昨日の事のように思い出します。不安で途方にくれた気持ちやすまり、たくさんの気づきと本当に大切な事を教えていただきました。自分を信じて自分らしく生き生きと生きる事！ ことも信じる事！ 焦らずゆっくり見守る事は簡単な様でも一人では何度もくじけそうになりました。先生に出会えなければ、助けて戴いた皆さんの方との出会いもありませんでした。自分の子どもの事から今まで知らなかった社会に広く目を向けられるようにもなりました。この経験は私の人生の宝になりました。(中略)こんな平和な日に感謝しながら、これからも先生のご健康とご健闘をお祈りしています。また何かお役にたてる事があれば声をかけて下さい。お元気で！！(三澤まりさん メールでいただきました)

△実名ご容赦ください。幼児教育で音楽とピアノの先生として貢献されている三澤さん。ご自身のお子さんと正面から、時には後ろから斜めから寄り添い向き合ってきた方です。親の会をリードし涙を流しながらも次の瞬間笑顔に戻りお互いを支え合ってくれた母と女性の凛とした姿が目



**「人並みへの憧れ」
「今、考えること」**
岡本圭太さん(横浜サポートステーション相談員ひきこもり経験者)著
各頒価500円47ページ(リロード通信手記)
滝田携帯へ連絡 送料無料で送付します

県教委 学校・フリースクール連携協議会 3年の会長を退任しました



6月1日(土)県立青少年センター別館9時 8年目第16回協議会が開催。この3年会長を引き受け本日、西野博之さん(NPO法人フリースペースたまりば)にバトンタッチ。肩の荷を下ろすが不登校は続く。学校の理解は不十分、子どもも親も孤立。「学校へ行かない」「学校復帰」で揺れる。武藤氏・和田氏と4人で創設時をトーク。午後は相談会、親子4人の体験談も最高。詳細は次号で。

ご案内 (研究所は駐車場は2台分あります。電車の方は駅までお迎えします。事前にご連絡ください。)

右の日程で進めます。相談のお申込みはいつでもどうぞ。連絡先は携帯(09072124055)へ。応援団会議は8月の講演会を具体化します。お時間のある方は実行委員会へ参加ください。チラシ配布、当日の受付・司会・会計等、一緒に活動しませんか。日ノ出町の教育会館ホールで

6月の開所日程			
3日(月)	相談(予約済み)	17日(月)	相談
6日(木)	相談	20日(木)	相談
10日(月)	相談(予約済み)	24日(月)	相談
13日(木)	相談(予約済み)	27日(木)	応援団会議
応援団会議 午後2時～3時			
横須賀市サポートセンター(京急汐入駅)			

